

障害ある子の職場参加，保育園で読み聞かせ挑戦

障害のある小中学生が地域のさまざまな職場で継続的に働くことで，障害に理解ある地域をつくっていく取り組み「ぶれジョブ」が，長野県須坂市で始まっている。県内では初めての試み。2010年12月7日には，日野小学校4年の西田俊介君が日野保育園で働き始めた。保育園では，3～5歳の園児たちを相手に約1時間，絵本や紙芝居の読み聞かせをしたり，ブロック遊びをしたりした。今後も毎週火曜日に，1時間を目安に働く。

ぶれジョブは10年ほど前に岡山県で始まった。須坂市では障害のある子どもの母親らが今年，「ぶれジョブ推進会議」を結成。中学校区ごとに「ぶれジョ

ブの会」をつくろうと活動している。2010年10月に最初の会が墨坂中学校区で発足した。西田君のほか，日野小6年生が地元の中古本販売店で働いており，さらに4年生1人が近く，デイサービスセンターで働き始める。

ぶれジョブには，仕事を提供する事業所や，子どもに付き添って仕事の様子を見守るボランティア「ジョブサポーター」が必要。推進会議の会長，菅沼美知子さんは「ぶれジョブへの理解者を増やし，一歩ずつ，市全体に広げていきたい」と話している。

（信濃毎日新聞・長野 2010年12月9日）

「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2010年12月号特集目次

特集・ポスト自立支援法の行方

ポスト自立支援法—新法づくりと総合福祉部会
（佐藤久夫）

新法づくりに向けた提言

日本型社会支援雇用制度の確立を（北村典幸）
医療的ケアが必要な超重症児者への支援体制の
確立を一医療（医療保険）と福祉（自立支援
法）の隙間のない連携に向けて（杉本健郎）
子どもたちのこれまでとこれから（池添 素）
相談支援事業の課題と展望（小澤 温）
障害程度区分と支給決定プロセス（竹端 寛）
地域移行—必要なバックアップはユニバーサル

な支援で（田中正博）

「利用者負担」について（藤岡 毅）

難病・慢性疾患のある人が福祉を利用できるた
めには—障害者新法に向けて思うこと（水谷
幸司）

障害者自立支援法改正案と今後の総合福祉部会
（東川悦子）

新しい法律づくりに向けた意見—知的当事者の
立場から（土本秋夫）

新たな希望へ—自立支援法，それ以前とそれ以
降（相原正義）